

2015 年度 大学機関別認証評価

認証評価結果に対する改善報告書

2016 年 7 月

認証評価結果に対する改善報告書

平成 28 年 7 月 27 日

1. 大学名：星城大学

2. 認証評価実施年度：平成 27 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：1－2

○学部ごとの人材養成に関する目的やその他の教育上の目的は示されているが、学則等に定められていないので、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目：1－2について

教育上の目的は学則には、「別に定める」と示しており、その根拠としてホームページに掲載があります。このことは、評価書の3ページ【評価結果】の【理由】にも「ホームページ等に示されている」と記載いただいているところです。

本学では、教育上の目的を明確にするため、星城大学学則第1条第3項の「本学の基本理念と使命・目的及び第3条に掲げる学部学科の教育目的等については別に定める」を規程化（資料1）し、さらに、従来、記載のなかった経営学部の「学生生活のしおり」（資料2）の中に記載し徹底を図りました。ホームページ（資料3）においても学生に明示、わかりやすいように明示しています。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目：1－2の資料

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・星城大学における教育目的等に関する規程 | 資料1 |
| ・学生生活のしおり〔経営学部・リハビリテーション学部〕 | 資料2 |
| ・大学ホームページ関連ページ抜粋 | 資料3 |

認証評価結果に対する改善報告書

平成 28 年 7 月 27 日

1. 大学名：星城大学

2. 認証評価実施年度：平成 27 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○経営学部経営学科については、在籍学生数が収容定員の7割未満であり、改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目：2-1について

定員未達の現況については、少子化の影響だけでなく、本学の運営体制及び現代の学生が求める将来に対する明確なビジョンの提示ができる教育体制整備と教育プログラムの提案が充分でなかったという点が大きな要因であったと考えている。

そのため、ここ2年間、新学長を中心に様々な新しい提案を検討、教育体制を見直す中で、より高校生や若者が理解しやすい形、プログラムの提示が必要であるということから、平成27年度は、経営・グローバルビジネス・健康マネジメントの3分野に経営学部の分野をわけ、各分野において構想を協議してきた(資料1)。認証評価、現地調査前後に、各分野の協議内容がまとめられ、検討してきたが、それぞれの構想内容において方向性や、視点、ポイントに差異があり、専門教科の分野とあわせ、教養科目、教職課程等のあり方なども含めた総合的な見地で、本年度、数年後を見据えた全学的な将来構想として検討することとしている。

また、受験生の視点から理解できる、海外留学研修や、教職資格取得等の制度を分かりやすく体系化し、コースの見直しを具体化、カリキュラムの再構築もあわせ行っていく。

さらに、新学長のもとで、事務組織も新体制とし、学生募集の組織と人員強化をしてきた。平成27年度は、前年度定員5割に満たなかった入学者数を171人(対前年度比121%増)の入学定員充足率57%にまで回復できた。さらに今春(平成28年度)の募集では、200名の入学者(対前年度比117%増)入学定員充足率67%を確保できた。来年度に向けて、さらに募集体制を強化し、組織的な運営を図り、募集に向けて鋭意努力している(資料2)。在籍学生数の収容定員比7割にはもう少し時間を要するが、着実に実績を積み重ねていく。

その他、科学研究費の採択率が高く研究力がある大学・地域貢献度が高い大学(資料3)、女性の活躍が評価されている大学(資料4)等の評価を大切に、一層充実した教育環境を目指し、教育体制を整備し、地域から愛され、高校生から評価される大学としていく。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目：2-1の資料

- | | |
|---------------------|------|
| ・ 経営学部再編構想原案 | 資料 1 |
| ・ 募集結果資料・募集組織と人員 | 資料 2 |
| ・ 科学研究費採択教員比率・地域貢献度 | 資料 3 |
| ・ 愛知女性輝きカンパニー | 資料 4 |